



2024年2月14日

各 位

会 社 名 株式会社オカムラ食品工業
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 岡村 恒一
(コード:2938、東証スタンダード市場)
問合せ先 常務取締役兼 CFO 橋本 裕昭
(TEL. 03-3666-2333)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2024年2月14日開催の取締役会において、以下のとおり、昨年9月27日に開示した2024年6月期（2023年7月1日～2024年6月30日）の連結業績予想および個別業績予想を修正することとしましたので、お知らせいたします。

1. 連結業績予想の修正

(1) 当期の業績予想数値の修正（2023年7月1日～2024年6月30日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想（A）	百万円 32,598	百万円 1,949	百万円 1,775	百万円 1,234	円 銭 163.78
今回修正予想（B）	33,941	2,261	2,087	1,419	181.93
増 減 額（B－A）	1,342	312	312	185	—
増 減 率（％）	4.1	16.0	17.6	15.0	—
（参考）前期実績 （2023年6月期）	28,939	3,187	3,544	2,389	354.82

(2) 修正の理由

前期までの数年は、コロナ禍やウクライナ侵攻などに起因する需要と供給の一時的なアンバランスによりサーモン価格や魚卵価格が高騰し、在庫を有する企業は高い利益率を享受できる環境が生じていました。当社グループにおきましてもその恩恵を受け、2023年6月期は創業以来の最高益を計上した次第です。

一方、国内加工事業で取り扱う魚卵に関しては、魚卵価格が高騰しすぎた結果、前期後半からは相場や需給の調整局面に入る兆しが見えていました。さらには相場高騰局面で仕入れた高単価原材料の繰越もあったことから、前回発表数値については前期までの高い利益率も一旦落ち着くという想定の下、計画策定をいたしました。当期に入り、国内加工事業においては想定通り魚卵価格の調整は進み、販売価格は下落、第2四半期までの状況でも国内加工事業の利益率は前年同期比で大きく下がっています。しかしながら、原料仕入価格が想定以上に下落して原料の移動平均単価を押し下げた一方で、販売価格の下落は当初見込んでいたほどの下落幅とはなっていません。その結果、利益率は当初計画で想定したよりも高めで推移する状況となっています。

以上の状況を鑑み、加工事業における利益率は前期比で低下するものの、その低下の程度は当初計画からの見直しが必要と判断するに至っております。これらの結果、連結売上高は前回発表数値から1,342百万円増の33,941百万円、営業利益は312百万円増の2,261百万円、経常利益は312百万円増の2,087百万円となる見通しです。

2. 個別業績予想の修正

(1) 当期の業績予想数値の修正（2023年7月1日～2024年6月30日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	23,454	608	383	50.90
今回修正予想（B）	22,786	801	422	54.18
増減額（B－A）	△668	192	39	－
増減率（％）	△2.8	31.7	10.3	－
（参考）前期実績 （2023年6月期）	20,890	1,809	1,111	165.07

(2) 修正の理由

修正の理由については、連結業績予想の修正理由と同様であるため、記載を省略します。

※上記の予想は、発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上